



発行者:社会福祉法人じねんじょ  
発行日:令和3年4月1日  
TEL:083-252-2227  
FAX:083-252-2259  
E-mail:jinenjo@jinenjo.or.jp  
<http://www.jinenjo.or.jp>

VOL.  
35  
2021/04

# 大地

(じねんじょ通信)

## 新施設がオープンしました!!

社会福祉法人じねんじょ理事長 金原洋治

昨年から建設を進めていた新施設が完成し、令和3年4月1日から新たな場での活動を開始できたことをご報告いたします。

新館は、新たな生活介護サービス事業所「だいち」(重症者対応・定員20名)に加え、ヘルパーステーション「ふわり」と相談支援事業所「じねんじょ」を本館から移設します。本館は、4階が生活介護サービス事業所「じねんじょ」(重症者対応・定員20名)、3階が「むく」(重症児型放課後等デイサービス 定員5名)・「むくっこ」(重症児型児童発達支援定員5名)となります。18歳以上の方の受け入れは、新たな生活介護施設を開設したことで、定員30名から総定員40名(最大50名)に増やすことができました。

行政からの助成金が全くなく、コロナ禍の中で大変心苦しかったのですが、ご寄付をお願いしたところ多くの皆様にご支援を賜りました。お陰さまで、目標金額を大きく上回るご寄付をいただき借入金を最小限にすることができました。紙面をお借りして、ご支援頂いたすべての皆様に篤く御礼申し上げます。有り難うございました。

かねはら小児科とじねんじょの掲示板に、金子みすゞさんの詩「明るい方へ」を掲示しておりますので紹介します。コロナ禍の中、世の中が皆様のお気持ちが明るい方へ向かうことをお祈りしております。

明るい方へ 明るい方へ 一つの葉でも 陽のもるとこへ やぶかけの草は  
明るい方へ 明るい方へ はねはこげよと 灯のあるとこへ 夜とぶ虫は  
明るい方へ 明るい方へ 一分もひろく 日のさすとこへ 都会(まち)に住む子らは

外観



竣工式の様子



## 生活介護じねんじょ 本体

### 【リモートを活かして活動をする】

昨年度も実施していた焼き芋会の開催をしました。じねんじょの釜を使って秋を感じよう、楽しもうという企画です。現在は、コロナウイルス感染症の対策として、密にならない事に気を付けました。そこで、社会的にも普及、認知度が高くなってきた「zoom」を各フロアで繋いで開催ができないかと話が上がり、企画をし、実施にいたりました。

各フロアを繋いで、屋上の釜から焼き芋を取り出す様子を、中継して「今、何をしているのか?」が見えて楽しめたのではないかと思いました。そして、「今からみんなの所に持つて行くよ。」と伝えて、各フロアに持ち帰っています。お互いのフロアで焼き

芋を割ってみたり、嗅いでみたり、食べていたりする様子を見ながらする事で、いつもとは違った「みんなで楽しむ」という事ができました。



焼き芋会をきっかけに、「今度は、音楽で繋ぐことはできないかな?」と新しい活動の発想も出てきて、この状況で楽しむようにと、前向きに取り組めているように感じています。

色々と制限があるなかで、「○○だからできない。」ではなく、「どうやったらできるかな?」「挑戦してみよう。」と考える良い機会、きっかけになったのではないだろうかと感じています。

みんなで1つの楽しい時間を作り、共有できる。新しい取り組み方に、メンバーも、支援員も挑戦していく事が大切だと感じたできごとでした。

## 生活介護じねんじょ ひなた

今年度はコロナウイルス感染症の影響もあり、外出等の余暇活動が思うようにできませんでした。しかしその環境をプラスに捉え、オンラインでつながることで、新たな活動展開を経験する事ができました。

今回はいくつかあるオンラインの活動から、音楽発表会を紹介します。発表内容は“はらぺこあおむし”、“ドレミの歌ひなたバージョン”的2曲です。どうしたらメンバーが楽しめるか、アイディアを出しながら1年かけて企画、制作、練習、演奏

と、根気強く取り組んできました。この出来栄えを是非見てもらいたい、更なる達成感を味わいたいと思い、むくメンバーに向けて発表会の開催を持ち掛けました。

本番の演奏が始まったと同時に、メンバーの意識も高まり、最高の演奏を届ける事ができました。画面越しではありますましたが、ひなたから届ける演奏に合わせて、むくメンバーも一緒に歌ったり楽器演奏で盛り上げてくれたりと、音楽の楽しさや時間が共有でき、とても有意義な時間となりました。

日々の音楽活動も、目的を持ち、それをを目指して取り組む事で、メンバー一人ひとりの役割意識や、意欲も向上するのだと、改めて感じられる活動になりました。



## 生活介護じねんじょ だいち

今年の焼き芋大会は、各フロアで、この時期だからこそその楽しみ方を行いました。他のフロアの会えないメンバーとリモートを通し、焼き芋を釜から出した物を受けとる、フロアのメンバーに届ける、お芋を割って臭いや、色を楽しんでいる姿を、画面を通してですがリアルに楽しむことが出来、各フロアで同じ反応が見られました。離れていても、表情で分かる喜びや、気持ちを伝えられる嬉しさに“みんなつながっている”を感じることが出来ました。これからも、いろいろな活動を通してつながりを大切にしていきたいです。



## 児童発達支援 むくっこ



むくっこの季節を取り入れた活動をご紹介します。

お正月を迎えるときに行う「お餅つき」と、2月2日節分の「豆まき」の様子をご紹介します。お餅つきは段ボールで臼と杵を手作りし、ビニール袋でお餅を作りました。杵を持ち上げるとお餅が杵にひつついで引張られながら上り、重さを感じる感覚や杵を振り下ろすとビニール袋のお餅がつかれ、圧を体に感じられるようにむくっこのスタッフが工夫しました。「ぺったん、ぺったん、ぺったん、こっ」のお餅つきの歌に合わせて繰り返し行うと、ビニール袋が伸び縮む音や、杵の重みなど視覚・聴覚・触覚のさまざまな感覚刺激を体験することができました。

豆まきは、フラフープにオニの顔を描いたビニール袋をつけ、そのフラフープを子どもたちの前で大きく振り下して、全身で風を感じもらいました。その後、手で触った感触が「すべすべ」のカラーボールや「いばいば」のついたボールを豆に見立て、オニの袋の中に「豆まきの歌」と共にボールを投げ込みオニ退治をしました。ボール豆を投げ終わった子どもたちの表情は、生き生きとして良い表情に変わっていました。

これからも子どもたちが楽しいと感じる活動を考え、好きなことや出来ることをひとつでも増やせるお手伝いをしていきたいと思います。



## 放課後等デイサービス むく



今年度、歳末たすけあい募金よりいただいた助成金で、「ウゴキンぐ」という機器を購入させていただきました。この機器があれば、電化製品(ミキサー、扇風機、ドライヤーなど)をスイッチに接続して、操作できるようになります。

2月の活動では、節分の豆まきならぬ、ドライヤーを使った風おこしで鬼を退治しました。また、バレンタインデーのクッキングでは、ハンドミキサーを使ってチョコレートデザートを作り、みんなで甘くておいしい時間を堪能しました。

スイッチを活動の中で取り入れながら、メンバーが「自分でできた!楽しい!」と感じられる活動を、これからも広げていきたいと思います。歳末たすけあい募金にご協力いただいた皆さんに、感謝申し上げます。ありがとうございました!!



# 居宅介護事業所ヘルパーステーション ふわり

## ノーリフトケアへの取り組み

社会福祉法人じねんじょは現在、ノーリフトケアに取り組もうとしています。ノーリフトケア(ノーリフティングケア)とは、介護する側・介護される側両者にとって安全で安心な、持ち上げない・抱え上げない・引きずらないケアのことです。方法の一つとして、人の力だけに頼らない、福祉機器や用具を有効に活用したケアがあります。ノーリフトケアは介助する者の身体的負担を軽減することはもちろん、介助される方の負担も軽減することができると言われます。介助する者の知識・技術・体力などに影響されることなく、誰に介助されても安定した姿勢を保ちながら安心できる速度で移乗などを行うことができるのです。

わたしたちヘルパーステーションふわりの職員が関わらせていただくメンバーの中には、既にご自宅でノーリフトケアを取り入れられている方がいらっしゃいます。ケアの方法を変えていく時は、メンバーもヘルパーも戸惑いがあり、試行錯誤がありました。しかし、検証しながら取り組み続けていくことで、両者が安心してケアに臨めるようになってきました。そこで教えていただいた抱え上げない介助の考え方や方法を参考に、今度は通所施設での介助をより安心で安全な方法へ変えていきたいと思っております。まだまだ、取り組みはスタート地点ですが、これから始めようとしているノーリフトケアが、メンバーとご家族のご自宅での生活にも活かされ、少しでも長く安心安全な在宅生活を続ける手助けとなればと考えています。

## 全国重症児ディサービスネットワーク 在宅看護研修会 報告

12月20(日)北九州市立総合療育センター西部分所所長の小児科医・療育医の那須康子先生より「育ちをはぐくむ医療機器とのつきあい方」と題し、重症児の支援に必要な視点や地域連携について貴重なお話を聞きしました。理事長が司会進行役を務め、コロナ禍のため対面ではなく、リモートでの研修参加となりました。

年々医療機器の進歩により、性能が良くなり軽量・小型化され、地域や在宅でケアする環境が整ってきています。その方に適した医療機器を活用することによって、メンバーとご家族が、住み慣れた地域、在宅で安心して暮らすことができ、活動の幅の広がりや生活の豊かさにつながっていくということを改めて学ぶ機会となりました。



## じねんじょSNS開設のお知らせ

InstagramとFacebookの二つでじねんじょ公式アカウントを開設いたしました。日々の活動や、作品を投稿していく予定です。

Instagram



Facebook



## 編集後記

4月で、じねんじょは18年目の春を迎えます。

新たな建物に生活介護サービス事業所「だいち」を開所し、「じねんじょ」と共に、地域にしつかり根を張り、力強く、味のある事業所を目指していきたいと思います。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。次号で生活介護の新たな日中活動の取り組みをご紹介する予定です。お楽しみに!

